

平成29年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成29年4月18日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語、数学)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

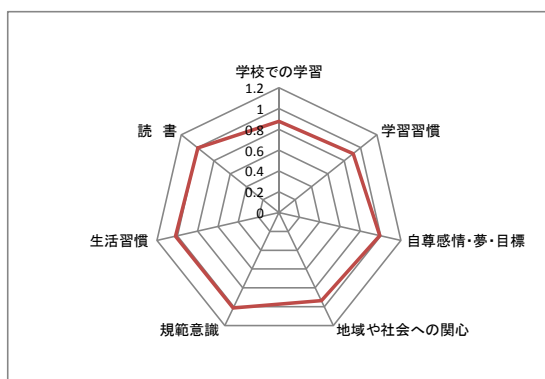
なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語A	全校平均正答率と同程度であった。特に、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の問題の正答率が高かった。ただ、通常の授業でも感じることだが、ニュアンスの違いなどによる言葉の使い分けなどが弱いようである。語彙力が乏しい傾向があるため、今後、辞書を手に置く等しながら授業に取り組んでいく。	同程度
国語B	国語Aで言及した点が、文章表現力にも影響していると思われる。作文は「嫌い」と思う生徒はさほど多くないが、作文を「苦手」とする生徒は多い。今後、文章表現の基礎の定着や語彙力の向上のため、書く機会を増やす取組を積極的に進めていく。	同程度
数学A	全校平均正答率を下回っているが、「円柱の体積を求める問題」や「二元一次方程式が表すグラフを選ぶ問題」では平均を超える正答率になっている。ただ、「証明で用いられている三角形の合同条件を書く問題」や「反比例の表から比例定数を求める問題」に課題が見られるため、今後、図形の性質を論理的に考察し表現する力や比例、反比例の関係について理解を深め、関数関係を見いだし表現し考察する能力を身に付けさせていく。	下回っている
数学B	全国平均正答率を下回っているが、「資料の活用」の分野では平均を超える正答率になっており、資料やグラフから必要な情報を読みとることができる傾向がある。ただ、「数と式」、「図形」の問題に課題が見られるため、今後、文字式から関係を読み取る活動や事柄が成り立つ理由を説明する活動等を積極的に取り入れていく。	下回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

- ・「人の役に立ちたい」と考えている生徒は全国平均を上回っているが、「将来の夢や目標を持っている」、「自分には良いところがある」と思うという質問に関しては全国平均を下回っている。このことから、「人の役に立ちたい」と考えてはいるものの、その方法がまだ見いだせていない状況にあると考えられる。
- ・授業における「振り返りの活動」が全国平均を下回っている。また、授業における「話し合い活動」の実施が全国平均を大きく下回っている。
- ・家庭学習の取り組みが全国平均に比べかなり不足している。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- ・指導主事要請授業やモデル授業を実施し、校内研修を通じて、組織的な授業改善を行っていく。
- ・各教科において課題を見いだし、その都度、適切な評価活動を行うことで、授業改善を図る。
- ・話し合い活動を行うために必要なツールの充実を図る。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・「家庭学習チャレンジハンドブック」をPTA理事会や学校ホームページ等で紹介し、保護者への学力向上に向けた啓発活動を行う。
- ・学校だより、学級通信などをさらに充実させ、家庭との連携を図り、学校生活の様子を具体的に紹介することによって、子供と親が家庭で共に過ごし、話題を共有することができるようにする。